

福病監発第13号  
令和5年9月22日

福生病院企業団  
企業長 松山 健 様

福生病院企業団  
監査委員 渡 辺 晃

監査委員 下 野 義 子

令和4年度福生病院企業団病院事業決算の審査意見について

地方公営企業法第30条第2項の規定に基づき、福生病院企業団病院事業決算  
について審査した結果、別紙のとおり意見を付します。

## 令和4年度福生病院企業団病院事業決算審査意見書

### 1 審査の対象

令和4年度福生病院企業団病院事業決算

### 2 審査の期日及び実施場所

令和5年8月28日（月） 公立福生病院2階大会議場

### 3 審査の着眼点

決算計数の正確性、財務諸表の適正性、決算内容の妥当性（経営活動が合理的かつ能率的に行われているか）等。

### 4 審査の主な実施内容

既の実施済の例月出納検査の結果も踏まえ事務長及び経理課職員による説明を聴取して審査を実施した。

### 5 審査の結果

審査に付された決算、証書類、事業報告書、その他の書類は、いずれも関係法令に基づき作成されており、適正に表示しているものと認められた。

また、予算の執行は、おおむね適正に執行されているものと認められた。

### 6 審査意見

食品やエネルギーなどの高騰に拍車がかかり収益を圧迫する状況の中でも、当院では積極的にコロナ患者の受け入れを行い、地域住民のための医療に応えるべく、適正な病院運営に常日頃より注力していることが窺い知れた。

決算については、令和2年度から新型コロナウイルス感染症関連の補助金等が計上されている。そのため通常は用いない会計処理を施さざるを得ない、または平準でない数字が計上されること等が影響し、今後数年は年度間の数値の増減や指標等を単純に比較することに適さない状況が続くと推察する。

業務実績については、入院患者数及び病床稼働率が5年ぶりに前年度を上回った。収益面では入院患者数が増加したことにより医業収益が増加した一方で、国や都による病院・医療従事者向けの補助金が減少したことなどにより医業外収益は減少した。費用面では、医業収益が増大したことに伴い材料費は増加した。加えてコロナ禍の長期化及びロシアのウクライナ侵攻などを背景とした光熱水費高騰の影響も受けたが、結果として黒字決算となった。しかしながら、補助金の受領が減額したことから前年度より純利益は減額した。

資金収支では、総合医療情報システムの更新により企業債収入が増加した。これにより年度末の資金残高53億8,563万6,019円となり、対前年度比21億4,664万6,193円の増加となったが、企業債収入は令和5年4月に9億円以上の総合医療情報システムの支払いに充てられるため年度末時点における一時的な増加であることを申し添える。

国は長期間続いたコロナ禍の終焉に向けての方向性を打ち出し、経済活動の活性化を促す

ため十分な医療提供体制の確保を望んでいる。当院においてもその要望に応えるためには適正な人材確保、医療機器の整備、施設設備の老朽化対策などの投資は必要不可欠なものであるため優先的に取り組む必要があると思われる。

最後に、令和4年度の実績を称えられ新型コロナウイルス感染症対策について東京都から感謝状が授与されたことを地域住民の一人として誇りを持ち、併せて感謝を申し上げるとともに、公立福生病院経営強化プランに掲げる持続可能な地域医療提供体制の確保にさらに努めていただきたい。

## 7 審査の概要

### (1) 業務実績

年間延患者数は入院が増加し、外来が減少した。患者一人一日当たりの診療収入単価は入院が増額し、外来が減額した。救急診療患者数はコロナ患者の救急搬送をはじめとして増加した。

区 分	令和4年度	令和3年度	比較増減	増減比率
年間延患者数				
入院	70,675人	63,575人	7,100人	11.2%
外来	163,245人	165,968人	△2,723人	△1.6%
患者一人一日当たりの診療収入単価				
入院	63,460円	62,520円	940円	1.5%
外来	13,998円	14,011円	△13円	△0.1%
救急診療患者数	15,487人	13,338人	2,149人	16.1%

### (2) 収益的収支（税抜き）

病院事業収益では、医業収益が増額となった。入院患者の延患者数が増加し医業収益が増加したが、コロナに係る補助金が減額したことにより医業外収益が大幅に減少し、収益の総額は減少した。医業費用は医業収益が増加したことに伴い材料費が増加したことに加え、コロナの影響の長期化及びコロナ禍による光熱水費等の高騰などにより経費が増加し、費用の総額は増加した。

その結果、当年度は8億537万153円の純利益を計上したが、対前年度比16億1,190万7,349円減少しており、これは医業外収益のコロナに係る補助金額が減少したことが大きく影響している。

区 分	令和4年度	令和3年度	比較増減	増減比率
病院事業収益				
医業収益	6,945,168,603円	6,477,501,295円	467,667,308円	7.3%
医業外収益	3,059,798,943円	4,799,522,527円	△1,739,723,584円	△36.2%
特別利益	4,536,458円	2,905,017円	1,631,441円	56.2%
病院事業費用				
企業団管理費	30,409,212円	29,896,695円	512,517円	1.7%
医業費用	8,594,147,366円	8,353,800,423円	240,346,943円	2.9%
医業外費用	579,364,758円	473,804,916円	105,559,842円	22.3%
特別損失	212,515円	5,149,303円	△4,936,788円	△95.9%
当期純利益	805,370,153円	2,417,277,502円	△1,611,907,349円	△66.7%

### (3) 資本的収支（税込み）

病院建設事業債の償還、医療機器等を医療機器等更新計画に基づき更新した結果、資本的収支はマイナス2億7,862万3,297円となった。

区 分	令和4年度	令和3年度	比較増減	増減比率
資本的収入	1,747,738,360円	683,521,000円	1,064,217,360円	155.7%
企業債	1,343,200,000円	260,612,000円	1,082,588,000円	415.4%
他会計補助金	167,229,000円	163,874,000円	3,355,000円	2.0%
都補助金	61,050,000円	86,368,000円	△25,318,000円	△29.3%
他会計負担金	175,881,000円	172,415,000円	3,466,000円	2.0%
その他投資	378,360円	252,000円	126,360円	50.1%
資本的支出	2,026,361,657円	988,386,689円	1,037,974,968円	105.0%
建設改良費	1,353,599,423円	315,677,065円	1,037,922,358円	328.8%
企業債償還金	672,492,734円	672,508,124円	△15,390円	△0.0%
その他投資返還金	269,500円	201,500円	68,000円	33.7%
収支差引	△278,623,297円	△304,865,689円	26,242,392円	-

### (4) キャッシュ・フロー

年度末の資金残高は、総合医療情報システムに係る企業債収入が増加したことに伴い、対前年度比21億4,664万6,193円の増額となった。

区 分	令和4年度	令和3年度	比較増減	増減比率
業務活動キャッシュ・フロー	2,296,414,997円	2,380,985,987円	△84,570,990円	△3.6%
投資活動キャッシュ・フロー	△1,230,436,070円	△286,928,650円	△943,507,420円	-
財務活動キャッシュ・フロー	1,080,667,266円	10,760,876円	1,069,906,390円	9,942.6%
資金増減額	2,146,646,193円	2,104,818,213円	41,827,980円	2.0%
年度期首資金残高	3,238,989,826円	1,134,171,613円	2,104,818,213円	185.6%
年度末資金残高	5,385,636,019円	3,238,989,826円	2,146,646,193円	66.3%